

— 総括表 —		
◆ 事業計画		
<input type="checkbox"/> 地域の現状と今後の方向性		
地域の現状 ・高齢化が進み移動手段が少なく生活への支障が出ている地域があります。 ・担い手が不足しています。 今後の方向性 ・移送の仕組み作りをさらに進めます。 ・担い手につながる手立てを地域の皆様と共に考えていきます。		
<input type="checkbox"/> 今年度の重点的な取組		
新規	継続	— 具体的な取組内容 —
■	<input type="checkbox"/>	・「お出かけ助け隊」プロジェクトを立ち上げ、移動支援に地域住民の力が引き出せるよう取り組みます。
■	<input type="checkbox"/>	・近隣の福祉施設や学校と協力して、新たなイベント(スタンプラリー)を秋に開催します。 ・地域活動に利用できるようマッチングを行い、住民と施設の活動を支援します。
■	<input type="checkbox"/>	・小学生や中学生を対象に認知症サポーター養成講座開催のアプローチや高齢者の体験等を実施して若い世代に高齢者の理解が進むよう働きかけます。
<input type="checkbox"/>	■	・ケアプラザに来れない方へ情報が届くよう、出前講座の回数を増やして実施します。
<input type="checkbox"/>	■	・ケアプラザの自主事業が地域の方たちの自主的な活動として移行継続できるよう支援を行います。
◆ 事業報告・事業実績評価		
■ 振り返り		
・「お出かけ手伝い隊」はボランティアの方が積極的に活動に参加していただいています。外出にお困りの方への支援も広がりを見せており、今後も個々のケースを大切にしながら地域の方たちの輪をつなげてまいります。 ・コロナ禍で、計画通りの規模では実施に至りませんでした。スタンプラリーも健康フェスティバルの中に組み込んで実施しました。外でのイベントは地域の方も安心して参加していただけたので、次年度にはまた近隣の施設とともに実施できるようにしていきます。 ・認知症サポーター養成講座も中学校に依頼のみで今年度は終わってしまいそうですが、協力体制を整え次年度には中学生に向けて実施できそうです。地域への出張講座が中止となっていたため、フレイルやコロナの情報発信のためのチラシを地域へ配布しました。 ・自主化した事業が5つにもなり、後方支援を行っているところです。地域の皆様の力が生かされるよう支援を継続します。また、自主化に伴って負担に思われた方へのフォローアップを検討してまいります。		
<input type="checkbox"/> 区からのコメント		
(地域活動交流) 密を避けるなど工夫を行った上でミニミニ健康フェスティバルを開催できたことは評価できます。118名と多数の参加者を集め、多世代の方が楽しめる場となりました。来年度も、工夫を行った上での企画を期待します。 また、5つもの団体を自主化することができました。自主化に伴って負担に思われた方に対して、今後も後方支援を続けてください。		
(地域包括支援センター) コロナ禍においても、「お出かけ手伝い隊」の活動、認知症サポーター養成講座の開催、新規企画である個別の介護相談など、幅広く事業を展開できていました。また、弥生台の周知活動、地域ニーズに沿った各種研修、合同ケアマネ連絡会の開催など、地域住民や関係機関に対する支援の広さが伺えました。 日頃から、上記活動や個別支援をとおして地域との関係構築ができていますので、引き続き継続支援をお願いします。		
(生活支援体制整備事業) コロナ禍においても、感染対策に留意し「お出かけ手伝い隊」や「田んぼでGO」等の活動を継続し、人と人との交流や地域行事を大切に活動を発展させることができました。次年度は地域住民や関係団体と共に育んだ活動をさらに広げていくことを期待しています。		